

令和4年度 荻谷小学校の教育目標

(1) 本校の教育目標

校訓「きまりよく」の教育を基盤とし、人間性豊かで心身ともにたくましく、自ら考え正しく判断し、実践力のある児童の育成を図る。

【学校づくりスローガン】

「みんなでそだてよう 『おぎやまもも』
おもいやり・きょうりよく・やりぬく心・まなびあい もっともっと



【めざす児童の姿】

かしこい子（知）	あかるい子（徳）	げんきな子（体）
主体的に学びに向かい、共に学び合う喜びを感じる子	明るく思いやりのある心豊かな子	よき生活習慣を身に付けた、健康でたくましい子

(2) 経営方針

- ア 学校や地域の特色を生かし、子ども一人一人を伸ばす創意ある教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた子どもの成長を目指す。
- イ 家庭や地域社会との連携・協力の下で、子どもの健全育成や安心・安全な学校環境づくりを推進し、地域に愛され信頼される学校づくりに努める。
- ウ 子どもや保護者、同僚との信頼関係づくりに努めるとともに、教育愛と情熱をもって常に自己研鑽に励み、教員としての力量向上に努める。

(3) 本年度の重点努力目標 国語力・荻谷学・ICT・専門性の向上

- 授業での言語活動を明確に位置づけ、自分の感じたこと、考えたことを言葉で表現する力を高める。
- 生活科・総合的な学習を核として「荻谷を知り、荻谷で共に生きるための学び＝『荻谷学』」の単元構想づくりを推進する。〈社会に開かれた教育課程〉
- ICTを取り入れたカリキュラム作りと個別最適な学び、協働的な学びに対応した授業改善を推進する。
- 子どもと教師、子ども同士が心の通い合った信頼関係ができるように努めるとともに、教師が常に研修を積み重ね、それぞれの専門性を生かした「チーム荻谷」としての組織力を高める。

ア 「かしこい子」（知）の育成に向けて

- ・ 「教える」教室から「学ぶ」教室への意識改革を図り、子ども同士が直に学び合い、高め合える学級集団〈教室コミュニティ〉を創造する。
- ・ 様々な体験活動を通して「感性（＝気づきの目＋感動する心）」を育み、子ども自身が課題を見つけ、その解決方法を考えて、試行錯誤しながらやり遂げるような学びの場〈プロジェクト学習〉を設定する。〈主体的・対話的で深い学び〉
- ・ 子どもが自立した学習者になれるような家庭学習のスタイルを確立する。〈学びに向かう力〉

イ 「あかるい子」（徳）の育成に向けて

- ・ 多くの人と関わり、多様な考え方に触れたり、折り合いをつけながら協働したりするような体験を積み重ねて、人のために働ける荻谷小文化の創造に努める。
- ・ 道徳教育において、常に自分に問いかけ、自己を振り返ること〈自己内対話〉を重視する。
- ・ エンカウンターなどの活動を通して、人との関わりを学びながら、自分の良さに気付くと共に、折れない心〈レジリエンス〉を育む。

ウ 「げんきな子」（体）の育成に向けて

- ・ 「すこやかタイム」を生かし、バランスのとれた体力づくりを推進する。
- ・ 学校保健委員会の機能を充実し、子どもの健康意識と実践力の向上を図る。

エ 教育活動全般において

- ・ いじめ等の問題にチームで対応し、安心できる「心の居場所」となる学校づくりに努める。
- ・ 職員一人一人の意識改革を図り、会議や行事の見直しを図り、業務改善に努める。